

2011 東京医科大学救急医学講座研修プログラム

はじめに

救急医療は医療の原点ともいわれており、その必要性は年々高まっています。その一方で、救急医療機関は減少しており、現場の疲弊等が社会問題化しつつあります。しかし、国や自治体からの種々の支援など追い風ではありますが、専門分化して進歩してきた医学のなかで、全身を緊急度順に診療し救命できる医師はいまだ充足しているとはいえ、将来有望だと思えます。

東京医科大学救急医学講座では、強固な信頼とチームワークのもとで、我々とともに、これからの救急医療を担っていかこうと考えているチャレンジャーに、各自のニーズに応じた多様性を確保した最高の研修を提供したいと考えています。その結果、独自の救急医のキャリアプランが明確に提示できるようになると思えます。

研修施設

都内でも搬送件数の多い大都市型重症救命救急センター（東京医科大学病院救命救急センター）と、ER型を併用した（八王子医療センター救命救急センター）を運営しています。二つの施設で研修することにより、軽症から重症まで、初期診療から集中治療、根本治療まで、バランスの取れた救急医を目指せます。希望に応じて他の関連医療施設（主として日本救急医学会専門医指定施設）での研修も可能です。

研修方法

将来、救急医療の中心的、指導的役割を果たしたいと考えている方から、専門医取得のため3年、他専門医取得前の後期研修の1年、他診療科研修中のローテーション、転科・地域医療・開業前の数ヶ月、キャリアやスキル維持のための非常勤等々、ニーズ、ライフプランに応じて、じっくりと相談しながらプロフェッショナリズムを重視した研修をテラーメイドで考えます。積極的に主体的に共にプランニングしましょう。

これからは、従来の救命・集中治療型救急医だけでなく、ER型、あるいは外科系救急医（アキュートケアサージャン）育成にも力を入れていく予定です。このようなサブスペシャルティイ習得のため、内科、外科、脳外科、プライマリーケア、消化器内視鏡等の他科ローテーション研修を取り入れています。他科研修中も救急のスキル維持のために、救命救急センターでの兼任非常勤勤務を推奨しています。また、臨床だけでなく、研究は基礎から臨床まで、学会発表、論文執筆等も積極的に指導します。教育は一般市民から学生、救命士・看護師等コメディカル、医師まで、蘇生、外傷・熱傷、内因性救急、災害等々、幅広く、興味と将来設計に応じた標準化教育の指導を推奨しています。